

## はじめに

本研究においては、閉鎖性水域における環境再生の実現に向けて、三河湾流域をモデルにして、陸域と海域における様々なデータ分析と数値計算等を行い、目指すべき方向性と推進すべき方策について調査・検討した。

水環境や沿岸生態系は極めて複雑系の問題であるために、不確実性が非常に高い。しかし本研究のように仮説を立てながら、実現象の分析を行い、少しでも確実なものとしていくアプローチが必要になってきている。

今後は、森・川・海のつながりをより強く意識して、流域住民・NPO・関係行政機関・研究機関等がより連携し、より効果的な方策について推進していきたいと考えている。特に地球環境問題に直面している今日、それは喫緊の課題であるということを強く認識している。

最後に、本研究のWGに御参加頂き、陸域から沿岸海域にわたる広域かつ多要素が複雑に関係する本検討に対して、専門的な分野から様々な御助言を下された愛知県水産試験場・鈴木輝明場長、京都大学環境質制御センター・田中宏明教授、(独)港湾空港技術研究所・中村由行沿岸海域領域長、(独)土木研究所河川生態チーム・天野邦彦上席研究員及び水質チーム・鈴木穰上席研究員に感謝の意を表します。また、本研究の基礎となる情報の提供をして頂いた中部地方整備局および各関連事務所の方々に感謝を申し上げます。

平成 21 年 2 月  
環境研究部長 岸田 弘之